

緩和ケアチームが知っておきたい 多様化するオピオイドの薬理学特性

Pharmacological characteristics of the various opioids for palliative care team

京都府立医科大学附属病院薬剤部／疼痛緩和医療部 神林 祐子 Yuko Kanbayashi

Key Words

- ترامadol (tramadol)
- フェンタニル口腔粘膜吸収剤 (fentanyl oral transmucosal)
- メサドン (methadone)
- タペンタドール (tapentadol)
- オキシコドン注射剤 (oxycodone injection)
- μ オピオイド受容体 (μ -opioid receptor)

Summary

近年、がん疼痛治療に使用できるオピオイドの選択肢が広がった。その大半は μ オピオイド受容体作動薬であるが、それぞれ薬理的に微妙な差異がある。本稿では、日本緩和医療学会編『がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン(2014年版)』をもとに、新しく使用可能となったタペンタドール、メサドンなどのオピオイドも含め、その薬理学特性、薬物動態、作用機序について述べた。本稿が緩和ケアチームの活動の一助となり、より多くの患者の疼痛緩和、ひいては生活の質(QOL)の向上につながれば幸いである。

Several opioid options for cancer pain treatment have been made available in recent years. Most of those opioids are μ -receptor agonists with slightly different pharmacological properties. This article describes the pharmacological characteristics, pharmacokinetics, and mechanism of action of these opioids, including tapentadol and methadone, which became available for use based on the 2014 Clinical Guidelines for Cancer Pain Management edited by the Japanese Society for Palliative Medicine. This article is expected to support the activities of palliative care teams, leading to pain relief and therefore improving the quality of life (QOL) of more patients.

はじめに

オピオイドとは、麻薬性鎮痛薬やその関連合成鎮痛薬などのアルカロイドおよびモルヒネ様活性を有する内因性または合成ペプチド類の総称であり、がん患者の強い痛みに対する治療薬の主軸である。近年、がん疼痛治療に使用できるオピオイドの選択肢が広がった。その大半は μ オピオイド受容体作動薬であるが、おのおの薬理的に微

妙な差異がある。これらを適切に使いこなすためには、多様な薬剤の特性を理解する必要がある¹⁾²⁾。そして、個別的な治療を行うことで、疼痛管理の質は向上する。日本緩和医療学会は『がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン(2014年版)』を発表した²⁾。本稿では、このガイドラインをもとに新しく使用可能となったタペンタドール、メサドンなどのオピオイドも含め、その薬理学特性について述べる。